

## Association between a name change from palliative to supportive care and the timing of patient referrals at a comprehensive cancer center

Oncologist. 2011; 16(1): 105-1

### 要約

緩和ケアは身体症状のみならず精神的な面を含めて包括的にがん患者をサポートする。

しかし、その受診には様々な障害があり、緩和ケアという名称もその 1 つとされている。

この本論文では、緩和ケア科からサポーターティブケア科への診療科名の変更が、がん患者の受診動向に与える影響を調査した MD アンダーソンがんセンターからの報告である。

緩和ケア科からサポーターティブケア科への名称変更は 2007 年 11 月に実施された。

名称変更前 2006 年 1 月から 2007 年 8 月までと名称変更後 2008 年 1 月から 2009 年 8 月までの期間に緩和ケアの診察を受けたがん患者の記録をレトロスペクティブに調査した。

### 評価項目

患者背景、初回受診日、進行がん診断日、緩和ケアのコンサルテーション日、死亡日

両期間の受診総数は 4701 名であった。

### 患者背景

年齢: 59 歳 (中央値)、女性: 48% (前) 51% (後)、固形がん: 90%

### 結果

診療科名の変更後、受診数が 41% 増加した

(変更前: 1950 症例、変更後: 2751 症例  $p < 0.001$ )

増加したのは入院患者の受診数であった

(変更前: 733 症例、変更後: 1451 症例  $p < 0.001$ )

外来受診においては、病院の初回受診から緩和ケア受診までの期間の短縮

(変更前: 13.2 ヶ月、変更後: 9.2 ヶ月 (中央値)  $p < 0.001$ )

進行がん診断日から緩和ケア受診までの期間の短縮

(変更前: 6.9 ヶ月、変更後: 5.2 ヶ月 (中央値)  $p < 0.001$ )

外来患者においては、進行期以外のがん患者の受診が増加した

(変更前: 5%、変更後 14%、 $p < 0.001$ )

緩和ケア受診日からの生存期間の延長

(変更前: 4.7 ヶ月、変更後: 6.2 ヶ月 (中央値)  $p < 0.001$ )

\* : 入院患者: 1 ヶ月 (中央値)、前後で変化なし

## 考察

緩和ケア科からサポーターケア科への名称の変更は、入院患者及び外来患者の受診動向に影響を与えることが確認された。

特に、外来患者においては早期からの緩和ケアが促進され、患者の QOL の改善に寄与するものと考えられた。